

試練は人間を 進化させる

人類の起源に関して次のような通説があります。数百万年前、人類の祖先は森のなかの樹にぶらさがって安全に生活をエンジョイしていました。人間が緑色に落ち着きを感じ、樹上生活を脅かす蛇を好まないのはその名残です。ある日、地殻変動によって火山が森を分断しました。片方は相変わらず森のままでしたが、反対側では雨が

減った結果、森が後退し草原化

が進みま
した。森
がなくな
った側に

いた我が祖先たちは、待ち構えていたライオンやヒョウに食い殺され始めたのです。牙による四つの穴が空いている頭骨の化石が、実際に多く発掘されています。

ある祖先が頭をかまれそうになった時、無我夢中で横にあった石を持ち、ヒョウの頭をなぐりました。ヒョウは驚いて逃

げ去りました。「そうか！石でなくればヒョウが逃げたんだ」と、生き残った我が祖先は知恵をつけ、石を棒にくくりつけて武器を作り始めました。武器によって自分の命を守り通した結果、祖先は「ヒト」として進化し始めたのです。森のなかで安楽に暮らしてきた我々の祖先の一派は、今日も相変わらず「猿」



のままですが、森が後退し猛獣に襲われるという試練を生き抜いてきた一派は、幾多の試練を経てドンドン知恵を積み重ねていくことにより、地球上で一番知恵のある動物「ヒト」に成長し、今日地球の支配動物として高度文明を築いてきました。驚くべきことに、「ヒト」と「猿」の遺伝子の違いはわずか一・二%程度だということです。

さて、わが国全体に目を向けましょう。一九八〇年代の絶好調のバブル経済も一九九〇年にピークを打ち、その後は、「株価平均は右肩下がりで約四分の一（株式会社市場）」、「巨額な公的債務で約一〇〇兆円（国家）」、「処理し切れないほどの不良債権（金融機関）」と、約一二年間も苦しんでいるのに未だ解決のメドが立っていない。しかし物事は考えようです。この試練は将来の大きな成長に向けて、日本企業が再生し、国際競争力を回復するための大きなチャンスでもあるのです。

我々は、「明るければ強し」の精神、さらには、我に七難を与え給え」という戦国武将山中鹿之介の気構えを持ってこの試練を乗り越えていく運命にあるのです。

野村證券株式会社
経営役
岩佐昌治
(日本CFO協会理事)